

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	ア 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域
------	------------------------

<評価>

A: 指標を上回って達成

B: 指標通り達成

C: 未達成

評価	B
----	---

2 施策を構成する重点事業

・就学前教育の充実へのシステムづくり

1 施策の内容

・就学前教育の充実と支援のためのシステムづくりに努めるとともに、親と子どもがともに育つ学習機会を充実します。
 ・子どもの人権を尊重し、子どもの安心・安全を保障する取り組みを推進します。

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・長期社会体験研修	幼児教育から小学校教育への連続性を見通した教育のあり方の研究	・子どもの遊び等の変化・保育者の意識変化と気付き・大栄小学校と保育所との連携の推進・町内保育所(園)同士の連携・長期社会体験研修生からの発信	指標どおり達成 B
・半日保育士体験	就学前の子どもの様子や小学校での指導研究	・小学校教職員15名が町内全保育所(園)で体験・就学前の子どもの実態、遊びの様子、生活の流れ、保育内容、環境について知ることが出来た・小学校教育のあり方についての話し合いが持てた	指標どおり達成 B
・同日公開参観日	保育や学習の取り組み内容、環境、子どもたちの様子の公開	・年2回実施・1回目は参加者数836人・2回目は参加者数1,142人・参加者の声～家と違う子どもの姿が見られて良かった。2回目は目的を持って参観した。また参観したい。・幼保学校～アンケートの活用	指標どおり達成 B

・家庭教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・子育て学習講座	保・幼・小・中学校保護者を対象にした「子育て」学習の実施	町内保育所、幼稚園、8カ所で親を対象にした子育て講座を13回実施した。小中学校は、PTAとかでも同じような行事を行っているということで、現在の段階ではまだやっていない。	指標どおり達成 B
・青少年街頭補導事業	長期休業中の健全育成を図るため街頭補導の実施	夏休み期間中、北条地区3回、大栄地区3回の計6回の街頭補導を実施した。両地区の補導状況は、子どもの深夜はいかいやたむろしている子どもは無く、全体的に平穏だった。	指標どおり達成 B
・放課後子どもプラン	子どもほくえい塾、学童保育等放課後対策の運営協議会を開催	次世代育成支援対策地域協議会を立ち上げ、子どもの居場所づくりの問題点等を出し合い、子どもほくえい塾・学童保育のよりよい運営方法等を検討していく。	指標どおり達成 B

3 次年度以降の方針

・就学前教育の充実へのシステムづくり

・長期社会体験研修	継続(保育所、幼稚園で調整)
・半日保育士体験	継続(3年計画の3年目なのでまだ経験していない教職員の参加)
・同日公開参観日	継続(チラシを図書館、公民館などに置き広く呼びかける)

・家庭教育の充実

・子育て学習講座	継続(来年度は、予算化して実施)
・青少年街頭補導事業	継続(青少年育成北栄町民会議で予算化して実施)
・放課後子どもプラン	継続(取り組み方を検討していく。)

教育委員会の意見・要望等

<p>就学前教育の充実へのシステムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期社会体験研修 保育士と教職員が話し合う機会の設定が必要である。 ・半日保育士体験 中学校の先生へも拡大し取り組んでもらいたい。 ・幼保一元化検討委員会の答申にも注目したい。 <p>家庭教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て学習講座 地域の人材をもっと活用してみてはどうか。 親としての学ぶ機会を継続して提示する必要がある。
--

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	イ 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども
------	--

<評価>

A: 指標を上回って達成

B: 指標通り達成

C: 未達成

評価	B
----	----------

2 施策を構成する重点事業

・地域文化とのふれあいを深める教育の推進

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・転入教職員の町内めぐり	町内の歴史、文化、自然を知り指導に役立つ	・19人参加・北栄町に興味を持ったり児童生徒等と話題を共有するきっかけになった・町内に出かける際に役に立った・環境教育、生活科、社会科の授業で活用した	指標どおり達成 B

・地域文化の鑑賞機会の提供

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・青少年劇場巡回公演	小・中学生に質の高い優れた芸術文化を鑑賞できる機会の提供	町内全ての小中学校で実施でき、生の優れた芸術を鑑賞・体験できる機会を提供し、全ての児童生徒に芸術への関心を高めることができた。	指標どおり達成 B
・民俗芸能伝承	町内の伝統的な民俗芸能を記録する	近年、保存会の会員の高齢化等により活動が危ぶまれる「穂波の皿回し」の由来や写真、映像等で記録保存した。	指標どおり達成 B
・芸術文化活動	町民一般の方に質の高い優れた芸術文化の鑑賞機会の提供	西岡千秋バリトンコンサート、山城裕子ピアノコンサートを実行委員会形式で実施し、多くの町民一般の方々が音楽芸術を鑑賞する機会が提供できた。そうした中から、町民ボランティアによる自主的な音楽発表会も開催された。	指標を上回って達成 A
・歴史民俗資料館での展示	本町に関係した芸術文化資料の展示、紹介を行う	生田和孝の陶業展及びその弟子の河本賢治作陶展を同時開催するなど本町に関係した展示を中心に年8回開催した。	指標どおり達成 B

1 施策の内容

美しい自然の中で、子どもがのびのびと活動したり、地域の中で大人と共に学んだりすることを通して、自然や地域の文化、人の素晴らしさにふれあうことのできる環境づくりに努め、地域の教育力を高めます。

3 次年度以降の方針

・地域文化とのふれあいを深める教育の推進

・転入教職員の町内めぐり	継続(実施は着任式の後にする。コース、資料の見直し。指導に役立つような手立てを講じる。)

・地域文化の鑑賞機会の提供

・青少年劇場巡回公演	継続(町内小中学校での1校1公演を目指す。)
・民俗芸能伝承	継続(無形文化財の発掘に努め記録保存していく。)
・芸術文化活動	継続(文化団体または芸術活動家等との協働運営を指向していく。)
・歴史民俗資料館での展示	継続(本町に関係の深い展示を中心に実施。)

教育委員会の意見・要望等

<p>地域文化とのふれあいを深める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中で、子どもたちと地域文化のふれあいを深める活動を積極的に取り入れてもらいたい。 <p>地域文化の鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが休日を過ごす一つの選択肢として、歴史民俗資料館や公民館、図書館が活用出来ることをアピールする必要がある。 ・子どもの作品を町民に鑑賞提供(学校外)できる場の設定をしてみては。 ・地域の行事に子どもたちの出番を作ることで、地域文化伝承につながる。

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	ウ 仲良く遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども
------	--------------------------------

<評価>

A: 指標を上回って達成

B: 指標通り達成

C: 未達成

評価	B
----	---

2 施策を構成する重点事業

・保、幼、小、中の連携の充実

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・教員の人事交流、町教育振興連絡協議会、小・中連携強化事業、レインボープランの推進	保、幼、小、中、高等学校との連携・交流に関する実践研究の推進と成果の波及を目指す	・保、幼、中、高等学校との連携を計画的に進めた。 ・「家庭学習のてびき」を作成し、家庭に協力を呼びかけた。	指標どおり達成 B

・家庭教育の充実と青少年の健全育成

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・家庭の教育力アップ事業	家庭の教育力向上を図るため、研究協議、アンケート等の実施	町内保育所、幼稚園、小中学校より「基本的な生活習慣」アンケートを行い、分析した結果を保護者、教職員、教育関係者等で問題点や今後の方向性を話し合った。	指標どおり達成 B
・21世紀をつくる青少年の育成	地域に根ざした中学・高校生世代の地域活動リーダーの育成	自主企画「中高生と遊ぼうデー」の開催の他、清掃活動、地域活動への参加。能力向上研修への参加等とおし個々の資質を高めることができた。	指標どおり達成 B

3 次年度以降の方針

・保、幼、小、中の連携の充実

・教員の人事交流、町教育振興連絡協議会、小・中連携強化事業、レインボープランの推進	継続 (生活態度や学習規律の問題を解決するためにも、さらに教職員の共通理解・共通実践を図る。) (それぞれの教育活動の目標の中で、相互の関係があるものを明確にし、横の連携を図る必要がある。)
---	---

・家庭教育の充実と青少年の健全育成

・家庭の教育力アップ事業	継続(アンケートを基に、家庭教育に関する座談会、意見交換会等を実施していく。)
・21世紀をつくる青少年の育成	継続(ボランティアサークル会員の勧誘に努める。)

教育委員会の意見・要望等

保、幼、小、中の連携の充実 ・連携を更に深め、教科指導等のつなぎを研究していく必要がある。 家庭学習の充実と青少年の健全育成 ・家庭の教育力向上への対策をグレードアップ(アンケート止まりでなく)する。 ・異年齢間の交流や活動を地域の中で活発化する必要がある。

基本目標	1 豊かな自然とやさしい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり
------	------------------------------------

施策の柱	エ 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育
------	------------------------------------

1 施策の内容

・保・幼・小・中の連携のもと、異年齢間の交流や活動を通して、子どもの仲間作り育ちを支援し、学校での人権・同和教育を通して子どもが命の大切さを学びます。
 ・家庭や地域の中では、子どもの健全育成を推進する教育力の充実に図り、基本的な生き方を身につけさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合いながら、自立する子どもの育成をめざします。

<評価>

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	----------

1 施策の内容

子どもの目が輝き、笑顔で学習や活動に取り組み、学ぶことの大切さや喜びを味わいながら基礎的・基本的な内容を身につけ、自ら学び・考え・行動する力を育成する学校教育を進めます。

2 施策を構成する重点事業

・学校教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・少人数学級の推進	小学校1・2年生, 中学校1年生の少人数学級及び町基準(小学校33人, 中学校35人学級)の編成	・少人数学級の編成ができた。 ・少人数指導について、その特性や効果を十分に引き出しているとはいえない。	指標どおり達成 B
・特別支援教育補佐員及び学校司書補佐員の配置	子どもが意欲を持って取り組むことができるよう積極的に支援を行う。	・特別に支援が必要な児童、生徒に対する手立てが、適切にできている。 ・司書教諭を中心に計画的に図書館を活用している。授業に必要な本の準備を担任と相談しながら適切に選定している。そのことでも、教育効果が高い。	指標どおり達成 B

・国際化に応じた教育の充実

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・英語指導助手の配置	中学校のみならず, 小学校, 幼稚園・保育所での国際理解教育の推進	・ネイティブスピーカー(ALT)は、新鮮さや期待感があり学習意欲の高まりも感じられる。 ・ALTを通して異文化に触れることで、コミュニケーション能力を養えることは大きな成果である。加えて、子どもたちの外国語に対する興味・関心を高めるきっかけとなっており、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきている。	指標どおり達成 B

3 次年度以降の方針

・学校教育の充実

・少人数学級の推進	継続(学習活動や内容によって、指導方法及び学習隊形(コの字、小グループ等)の改善や研究を促進させる)
・特別支援教育補佐員及び学校司書補佐員の配置	継続 (配慮が必要な児童生徒への適切な対応が必要である。) (特別支援教育の充実に向けて、医療や福祉、家庭と連携しながら自立を目指した指導が必要である。)

・国際化に応じた教育の充実

・英語指導助手の配置	継続(小学校の新学習指導要領の中で、ALTの活用等を図るとも記載されているので、継続が必要。)
------------	---

教育委員会の意見・要望等

学校教育の充実
 ・子どもたちの学びを支える人的配置は、継続する必要がある。
 ・指導法の工夫改善により一層の推進
国際化に応じた教育の充実
 ・地域ボランティアの活用を図る

基本目標	2 町民みんなが、人権を尊重して仲良く暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり	施策の柱	オ 人権を尊重する機運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町
------	---	------	--

<評価>

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	---

1 施策の内容

「部落差別をはじめあらゆる差別をなくする条例」に基づき、人権・同和教育の取り組みを充実し、町民一人ひとりの基本的人権が尊重され、さまざまな活動や交流等をする中で人間性や社会性を磨き、幸せに暮らせる環境づくりに努めます。

2 施策を構成する重点事業

・人権同和教育の推進

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・人権教育講演会の開催	人権問題に対する正しい理解と認識を深めるため講演会を開催する	山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司さんを招き、講演会を開催。参加者からは「自らの意識を再点検するきっかけとなった」「普段なかなか聞くことのできない若者の視点から人権を学ぶことができた」などの意見が数多く聞かれ、講演をとおして認識を深めた。	指標どおり達成 B
・「人権同和教育小地域懇談会」及び「人権同和教育交流研修会」の開催	住民一人ひとりが差別の現実から学び、人権尊重の視点で身の回りを点検することで、すべての人が支え合い「安全」「安心」に暮らせる地域を築く一助とする。	町内全自治会を対象に実施。参加者同士での学習・話し合いをとおして身のまわりにある差別や偏見に気づく力を養い、「安全」「安心」なまちづくりに向けて参加者一人ひとりに何ができるかを考える機会となった。	指標どおり達成 B

・人権尊重町づくりの推進

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価
・「人権の花運動」の実施	花を育てることを通して、命の尊さを学び、豊かな心・思いやりの心を養う	大栄小学校を対象に事業実施。児童が相互に協力し合いながら花を育てることによって、生物の尊さを実感する中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を学んだ。	指標どおり達成 B
・部落解放文化祭の実施	地域住民の連携と人権意識の高揚を図り、部落の完全解放を進めることを目的とする。	部落解放文化祭で、学習や文化活動の成果を発表し多くの方に参加してもらうことができた。大栄・北条が交流しつつ、同じ差別の拠点を持つ双方がより一層つながりを持ちつつ、住民の人権意識の高揚を図ることが出来た。	指標どおり達成 B

3 次年度以降の方針

・人権同和教育の推進

・人権教育講演会の開催	継続(部落解放月間行事として、同和問題をはじめとした人権問題に対する正しい理解と認識を深める)
・「人権同和教育小地域懇談会」及び「人権同和教育交流研修会」の開催	継続(町内全自治会を対象に地域単位での人権学習の場を提供する)

・人権尊重町づくりの推進

・「人権の花運動」の実施	継続(次年度は北条小学校を対象に実施)
・部落解放文化祭の実施	継続(北条・大栄の一本化に向け検討委員会を立ち上げ、日程・運営等について話し合いを行う。)

教育委員会の意見・要望等

人権同和教育の推進
 ・人権教育に関する啓発活動は継続する必要がある。
 ・町民意識調査結果を活用した事業の展開を図る必要がある。
 ・同推協、解放研等の組織の活用を図る。

基本目標	2 町民みんなが、人権を尊重して仲良く暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり	施策の柱	力 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町
------	---	------	--

<評価>

- A: 指標を上回って達成
- B: 指標通り達成
- C: 未達成

評価	B
----	---

1 施策の内容

・生涯学習の推進体制を充実し、スポーツクラブや文化活動をする団体等の育成を図り、町民が生涯を通して楽しく学べ、スポーツや文化に親しむことができる環境づくりを推進します。また、町民一人一人が自らの健康管理をするため、食育や体力づくりを進めます。
 ・自らの夢を実現しようとする人を支援し、町民が嬉々として暮らせる安心・安全な町をめざします。

2 施策を構成する重点事業

・公民館活動の推進

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価	
・公民館講座の開催	生涯学習の場となるための世代別・課題別講座の開催	中高齢者対象講座や楽しい家庭菜園体験講座ほかを実施した。	指標どおり達成	B
・北栄文芸の発刊	幅広い年齢層に応じて文芸に親しみ文芸の芽を育てる場として作品を募集し年4回文芸誌を発刊する	年4回の発行。7.12(土)「投稿者の集い」を開催し33名の参加があった。初めての試みでお互いの交流を深め、より一層の文芸誌発展について話し合うことができた。	指標どおり達成	B
・美術展及び公民館祭りの開催	文化活動者の拡大と町民の文化意識を高めるために発表と鑑賞の機会を提供する	美術展9部門に出展数143点、鑑賞者605名で昨年より多くの出展、鑑賞者数があった。公民館祭作品展(1/31～2/8)芸能発表会(2/8)を実施した。	指標どおり達成	B

・図書館活動の推進

事業計画	指標	事業の成果等	事業の評価	
・図書館情報システムの活用	分室・小中4校にシステムを導入、横断検索にも参加し広く活用する。	図書館システムの活用法を広く普及させるため研修会を開催。47人の参加者あり。学校間相互貸借も順調である。横断検索に参加したことで他館からの予約も増えている。	指標どおり達成	B
・乳幼児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせ等を実施する	生後7ヶ月の赤ちゃんを対象にブックスタート。赤ちゃん向けのお話を毎月2回実施	ブックスタートは月平均9組の参加。趣旨を説明し図書館の利用促進を図っている。毎月2回実施している「お話し会」も保護者の良い交流の場となっている。	指標どおり達成	B

3 次年度以降の方針

・公民館活動の推進

・公民館講座の開催	継続(新たな講座・教室を行う。)
・北栄文芸の発刊	継続(年4回発行。さらなる投稿者増のための啓発を行う。)
・美術展及び公民館祭りの開催	継続(広報・宣伝を重点的にを行い、さらなる出展者・鑑賞者の増を図る。)

・図書館活動の推進

・図書館情報システムの活用	継続(図書館システムを活用して、レファレンス業務に力を入れる。)
・乳幼児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせ等を実施する	継続(読み聞かせボランティアの養成をする。)

教育委員会の意見・要望等

公民館活動の推進
 ・他の事業と連携した公民館講座の充実策を図る必要がある。
 ・若い層が集える公民館活動を模索すべき。